



お問い合わせ先

中国四国農政局愛媛県拠点

〒790-8519 愛媛県松山市宮田町 188 番地 松山地方合同庁舎

☎089-932-1177

中国四国農政局農村振興部農村計画課

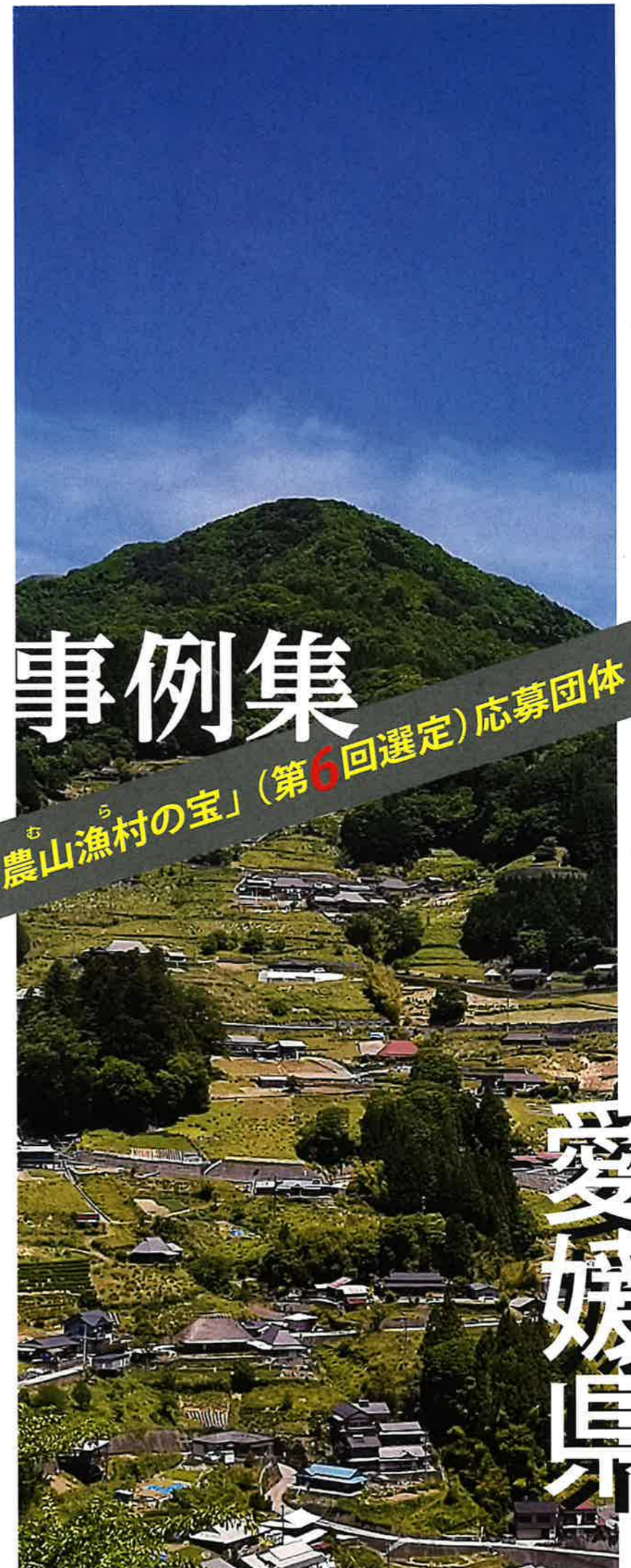
〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1 丁目 4 番 1 号 ☎086-224-4511

取組事例集

「ディスカバ^ら農山漁村の家」(第6回選定)応募団体

令和2年3月
中国四国農政局

愛媛県



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月

中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について ……	1
○ 応募団体一覧 ……	8
○ 応募団体位置図 ……	9
○ 応募団体の取組事例 ……	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行い、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

（２） 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社 D's プランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（鳥根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈りや泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米（まいまい）田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（鳥根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド商品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごっつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2 GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線用水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市） （高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県いの町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせて住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会

集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。

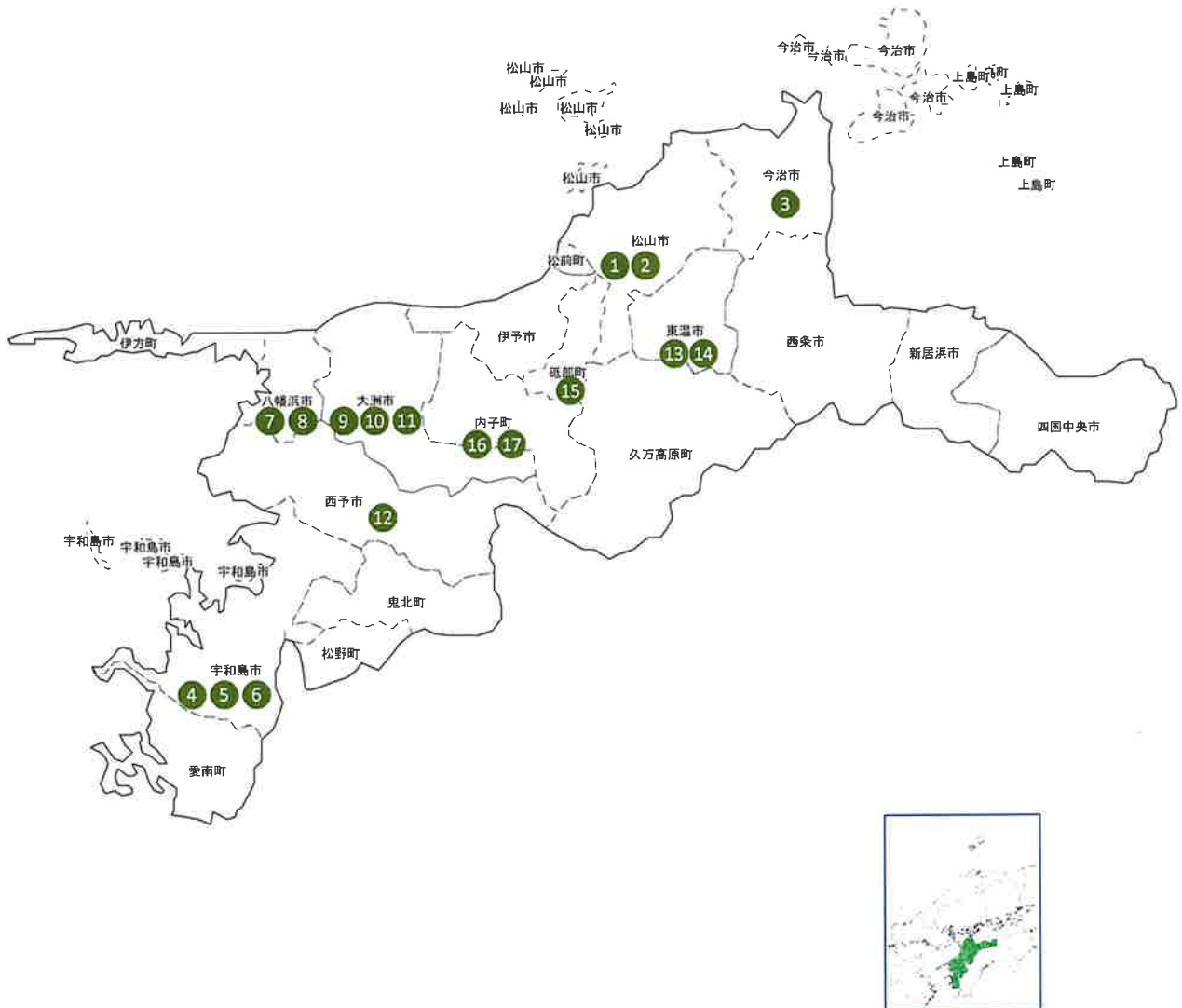


新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (愛媛県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	松山市	公益社団法人 松山市シルバー人材センター	伝統の継承	6次産業化	高齢者の活躍
②		コミュニティ	松山市	生活協同組合コープえひめ	食育・教育	-	-
③		コミュニティ	今治市	大浜漁業協同組合女性部	6次産業化	地元食材の提供・活用	女性・高齢者の活躍
④		コミュニティ	宇和島市	株式会社 玉津柑橘倶楽部	6次産業化	復興	-
⑤		コミュニティ	宇和島市	愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」	輸出	企業との連携	-
⑥		個人	宇和島市	土居 一徳	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	教育機関との 連携
⑦		コミュニティ	八幡浜市	ダルメイン世界マーマレードアワード & フェスティバル日本大会実行委員会	6次産業化	企業との連携	地方経済の活 性化
⑧		ビジネス	八幡浜市	農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン	6次産業化	教育機関との連 携	グローバルGAP 取得支援
⑨		コミュニティ	大洲市	榎谷棚田保存会	鳥獣被害防止	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全
⑩		コミュニティ	大洲市	愛媛県立 大洲農業高等学校	伝統の継承	6次産業化	-
⑪		ビジネス	大洲市	愛媛たいき農業協同組合	復興	-	-
⑫		コミュニティ	西予市	生活協同組合コープえひめ(西予支所)	食育・教育	-	-
⑬		コミュニティ	東温市	奥松瀬川創生会議	農林漁業、 農村文化体験	高齢者の活躍	学生・若者の 活躍
⑭		個人	東温市	森田 将史	高齢者の活躍	若者・学生の 活躍	障害者の 活躍
⑮		コミュニティ	砥部町	川井営農組合	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	高齢者の活躍
⑯		コミュニティ	内子町	泉谷地区棚田を守る会	農泊	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全
⑰		個人	内子町	納堂 邦弘	雇用	6次産業化	-

応募団体位置図（愛媛県）



まつやまし

公益社団法人松山市シルバー人材センター

～農で集うシルバーパワー～



果樹(柑橘)剪定作業の講習会



伝統野菜「伊予緋かぶ」の収穫及び加工と完成品



経緯

- 農業従事者の高齢化や生産効率の低下に伴う農業の労働力不足が言われるが、シルバー人材が農業を活性化するチャンス。
- 農業を振興保全できるパワーあるシルバー人材を育成し、農業を活性化することを目的に、地域社会と連携した取り組みに挑戦。

取組内容

- 都市部の農地を保全するシルバー世代を育成する為、農家・大学(農学部)と連携した研修、農作業体験等を幅広く実践。
- 柑橘剪定作業ができる人材を育成し、果樹農家の支援に取り組み、地域支援を実現。
- 正月の郷土料理に使う伝統野菜「伊予緋かぶ」をシルバー世代が栽培し、「まつやま郷土料理研究会」が加工販売。

活動の効果

- 仲間の絆が深まり、高齢者の健康増進と生きがいづくりにも寄与することができた。
- JAと連携して柑橘果樹の剪定作業ができる人材を育成し、実際に果樹農家で剪定作業を行う受託体制も確立できた。
- 郷土料理の一つである「緋のかぶら漬け」に使う伝統野菜を栽培する就農者を人材育成し、加工・販売する郷土料理研究会と連携した体制が確立できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の経済を支え続けてきた高齢者達が、農ビジネスに挑戦することで、新たなコミュニティも生まれ、生きがいのあるシルバーライフとなっています。

生活協同組合コープえひめ

～生産者との交流を通じて産地を元気に！～



2019年冬の交流会 しめ縄・竹馬竹とんぼづくり



さくら米生産部会の生産者

経緯

- 1974年7月12日に生活協同組合として発足(2004年10月1日 えひめ生活協同組合と生活協同組合アイコープが合併し、生活協同組合コープえひめ発足)。
- 1994年に当時の特別栽培米として取り組みをスタート。その後、産直と食育の取り組みとして、活動継続。

取組内容

- 産直の取り組みとしてスタートし、2019年度で25年目を迎える。
- 安心して食べることができる地元のお米を安定して届けることを目的に、東温市宝泉地区の生産者(さくら米生産部会)と消費者(生活協同組合コープえひめ)が米の年間契約を締結。
- 生産者と消費者が顔を合わせて交流できる場を提供。

活動の効果

- 12月開催の交流会では、生産者に稲わらを使ったしめ縄の直接指導を受けた後、竹馬や竹とんぼづくりに挑戦するなど、地域の方々と昔を懐かしむ体験を行い、幅広い学びの場となるなど、情操教育に貢献。
- 消費者との交流をすることで、生産者の栽培意欲の向上につながった。
- 交流会に参加した子どもの両親らは、体験を通じ子どもたちの笑顔にふれあうことができ、農業に対する関心度が高まった。

応募団体からのアピール・メッセージ

稲作体験など「食」に関するイベントや、食の安全・食生活など食育に関する学習などを通じ、子どもたちに「食の大切さ」を伝えています。

おおはま

大浜漁業協同組合女性部

～来島海峡の天然真鯛「来島鯛」を食べてみて～



最大10ノットの潮流を誇る来島海峡の潮流



「浜の台所『潮里』」とスタッフ

経緯

- 高齢化・後継者不足と重なり、漁業者人口が減少傾向になっているが、活気ある浜に戻したい。
- 大浜漁業協同組合が魚介類の提供や宣伝が行える加工直販施設を建設することになり、運営者として女性部に白羽の矢が立った。

取組内容

- 天然真鯛『来島鯛』を中心とした、大浜で水揚げされる魚介類を使ったメニューを開発。
- 平成28年9月、来島海峡でもまれた「真鯛」のふる里にという由来で命名した加工直販施設「浜の台所『潮里(しおり)』」をオープン。
- 「潮里」では、魚介類を使ったメニューを提供。地元のデイサービスへの出張販売も行う。

活動の効果

- 「潮里」への地域内外のリピーターも増え、地域に活気が出てきた。また、「潮里」が地域コミュニティの場となった。
- 漁協の男性陣が「潮里」を気にかけて、今まで以上に女性部に協力的になってくれた。
- 地元デイサービスへの出張販売をきっかけに、地域内外との交流が増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

「浜の台所『潮里』」が新たな観光名所となり、大浜の魅力を伝える発信の場になるよう、多くの観光客が訪れる場所を目指しています。

今治市大浜町2丁目3番28号先 Tel:0898-23-3737

4

うわじまし

愛媛県宇和島市

6次産業化

復興



たまつかんきつくらぶ

株式会社 玉津柑橘倶楽部

～復興 玉津みかん～



被災直後のみかん園地



玉津オリジナルみかんジュース

経緯

- 平成30年7月豪雨により、当地区の産業である柑橘は出荷もできないほどの甚大な被害を受けた。
- 復旧、復興に向け玉津産地が一体となって難局を乗り越えるため、若手後継者が中心となる窓口として(株)玉津柑橘倶楽部を設立し、復興に向けた取り組みを開始。

取組内容

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリングラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れに宿泊施設がないため受入れ人数に制約があったが、JAえひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド(河内晩柑)のジュースを商品化。

活動の効果

- クラウドファンディングの取組により「玉津みかん」のファンを新たに獲得する事ができた。
- 研修施設「たま家」を開設したことで、長期滞在による受入れが可能となり、受入れを継続することでターンによる移住や新規就農者の育成、確保が期待できる。
- ジュースの商品化による6次産業化に取り組むことで、産地ブランドの向上に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

5年～10年費やされる産地復興において中心的役割を果たし、「諦めない強さはいつもみかんが教えてくれた！」をキャッチフレーズに、地域のまとめ役として活動に取り組んでいきたい。

宇和島市吉田町法華津6-82-2 Tel:0895-52-7130

5

うわじまし

愛媛県宇和島市

輸出

企業との連携



うわじましさんこうとうがっこう

愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」

～県産魚PR活動 フィッシュガールの挑戦～



ハワイでのマグロ解体



開発した製品を松山空港で販売

経緯

- 平成24年、水産食品科の水産食品研究部に所属する女子生徒により結成。
- 地域連携活動の一環で、高校生がマグロの解体を行えば地域の人たちに興味を持ってもらえるのではないかと、という発想からスタート。

取組内容

- 産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや県産魚を利用した加工品開発、魚食の実演販売を通じ、愛媛県で養殖された魚(愛育フィッシュ)のPRを実施。
- 「ぶりだいこん缶詰」や「鯛めしの素缶詰」など様々な製品を開発し、国内外で販売。

活動の効果

- マグロの解体ショーは、国内での年約30回(H30)に加え、海外でもハワイやシンガポールなど、これまで5ヶ所で開催。
- HACCPを取得し、FDAに施設登録等を行い製品開発した「ぶりだいこん缶詰」が、国内初となる高校施設で製造した加工食品の米国への輸出となった(H30)。

応募団体からのアピール・メッセージ

高校時代に地域に関わる素晴らしさを感じるにより、地域の良さや地域の産業に愛着を持ち、地元を誇りを持って生きていく宝を育成する活動を継続しています。

宇和島市明倫町1丁目2番20号 Tel:0895-22-6575

6

うわじまし

愛媛県宇和島市

農林漁業、農
村文化体験環境保全・景
観保全教育機関との
連携

どい かずのり

土居 一徳

～真珠づくり 真珠を核としたまちづくり～



真珠養殖場体験ツアー



外国客船ツアー

経緯

- 宇和島は日本一の真珠の生産地であるが、県外の加工業者から全国に流通しているため知名度が低い。
- 真珠を核とした活動をとおして真珠の魅力を知ってもらい、さらには宇和島のファンになっていただけることを目的に活動を開始。

取組内容

- 真珠養殖の過程や知識を実際の現場で作業見学しながら説明。
- 宇和島市内の大学生、小学生を受入れ、生徒自らが真珠を作る核入れ体験授業を行っている。
- 真珠を取り出した後のアコヤガイ貝殻の有効活用法として、真珠層をパウダーに加工し、ご当地化粧品「花真珠」を開発・販売。

活動の効果

- 近年、宇和島港に入港する外国客船の増加や、台湾と松山の定期便就航により、ツアーに参加する海外からのお客様が多くなった。
- 地元美容業界と協力して「花真珠」を使ったパールエステを考案し、宇和島を訪れるお客様に楽しんでいただいている。
- 自社でとれた中で特別な真珠を自社の加工技術を活かし、「うぶたま」として国内外で販売。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本の世界に誇れる技術について日本人の皆さんに自信を持っていただき、海外の方々にも、日本人の技術力をアピールしていきたい。

宇和島市三浦西5121-9 Tel:0895-29-0011

ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会実行委員会

～マーマレードのまち八幡浜へ～



マーマレード展示会場の様子



英国審査員によるマーマレード教室

経緯

- 英国大会主催者から、近年日本からの出品数増加と品質の高さから、日本での大会開催の意向があることを知り、誘致活動を行う。
- 日本有数の愛媛産・八幡浜産の柑橘ブランドの一層の向上を図る。

取組内容

- マーマレードの出品はプロ、アマチュアの部あわせ、海外はイギリス・スペイン・フランス・香港・台湾の5つの国と地域、国内は北海道から鹿児島まで42都道府県からの出品があった。
- 大会期間中は、英国大会の関係者に小中学校等市内各所を訪問していただき、交流を図った。

活動の効果

- 多くの方に来場いただき、マーマレード・柑橘の魅力为全国へ向けてアピールできた。
- 英国や台湾からの来場者もあり、インバウンド観光の促進にもつながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

本大会は第3回まで八幡浜市での開催が決定しているが、まだまだマーマレードの魅力や大会の魅力が周知できていないことから、今後関係団体と連携を図りながら地域ブランド確立に向け取り組んでいきたい。



農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン

～ICT活用の農業者視点GAPエコシステム～



GAP経営研究会を開催



川之石高校による量販店でのGAP製品の販売を支援

経緯

- 15年間の会社員生活を経験した後、平成25年に帰郷し新規就農者としてゼロスタート。
- 「みかん農業を通じて、お客様、取引先、従業員とその家族に喜んでいただきたい」との想いと、「農業を事業として取り組みたい」との考えから会社を設立。

取組内容

- グローバルGAP及びASIAGAP認証による柑橘栽培と高付加価値販売。
- 6次産業化としてのみかんを使用した調味料「塩みかん」の加工販売。
- 「GAP認証取得支援システム」の開発とGAP普及への取り組み。

活動の効果

- すべての園地でグローバルGAP及びASIAGAP認証を取得し、大手量販店や百貨店等と継続的な取引関係を構築。
- 自社栽培で摘果したみかんの有効活用として、塩みかんを開発。調味料として活用するみかんの新しい価値を広げている。
- GAP認証取得支援システムを開発し、県内の農業高校・農業大学校に提供しグローバルGAP取得に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

当社はGAP認証取得支援システムを開発し、利用者同士の協力と知見の共有で、外部コンサルタントに頼らない「GAPのエコシステム」を目指しています。

かしだに

榎谷棚田保存会

～楽しく体験美味しさ満喫～



棚田オーナー募集説明会



田植祭

経緯

- 2012年、元棚田学会会長から棚田百選に匹敵する保存すべき棚田として推奨され、活動を開始。
- 中山間地衰退の中で、自然景観資源としての価値を活かす方を求め、棚田保存会が発足。

取組内容

- 保存会が中心となり棚田の保全、活用及び地域づくりに取り組む。
- 無名であった榎谷棚田の存在を知らせるため、写真展を3年連続で開催。
- 大洲市の支援を受け16年から棚田オーナー制度を導入。毎年20名前後のオーナーを得て活動。

活動の効果

- 高齢化、担い手不足の進行により棚田の存続が危ぶまれたが、棚田オーナー制度や地元農業高校の生徒が参加することで、若者の活力が注入され、活力が生み出された。
- 農高生が栽培した榎谷棚田米が「お米甲子園」で表彰台に上がることを目指し頑張っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

大洲農業高等学校生産科学科の生徒さんが参加することにより、若者の活力が棚田に注入され、活気を生み出しています。

おおず

愛媛県立大洲農業高等学校

～伊予の小京都 大洲の食文化を守りたい！～



生活研究会との郷土料理作り交流会



地域住民と連携し開店した「しょうざん亭」

経緯

- 愛媛県南予地域においては地域食材を使った特色ある食文化が今なお色濃く根付いているが、その保護と継承は次第に困難となってきたことから、高校生が地域の伝統的な食文化の継承者となり、地域資源としての食文化を守る活動を通じて、地域の活性化に貢献できないかと考え活動をスタート。

取組内容

- 地域の特産物を利用した6次産業化の研究や歴史的・文化的資源を活用した地域の活性化策について研究。
- そば栽培を行う応援隊「大農蕎麦'S」を結成し、耕作放棄地でそば栽培に取り組み。
- 高校生と地域が連携して「そばカフェ」をオープンし地域の食材をPR。

活動の効果

- 生活研究会との食育交流活動を通じ、地域の魅力ある食材の再発見を行い、郷土料理とそばをセットにしたワンプレートを考案。
- 愛媛県生活研究協議会等と連携して取り組んできた保護活動の内容が、ユネスコ無形文化遺産「和食：日本人の伝統的な食文化」の事例として取り上げられた。

応募団体からのアピール・メッセージ

平成30年7月豪雨により甚大な被害を受けた地域ではあるが、高校生の柔軟なアイディアと地域を誇り、地域を愛し、地域を興そうとする頑張りを発信し、地域の活性化に取り組んでいる。

大洲市東大洲15-1 Tel:0893-24-3101

愛媛たいき農業協同組合

～水害に負けんぜ！めざせ「真の地域密着」～



復興記念イベントの様子



移動販売車に集まる地域の方々

経緯

- 1992年に地方拠点法に基づき拠点都市に指定されたことから新たに産業業務施設の整備を決意。
- 1997年、東大洲へ大型複合商業施設「オズメッセ21」を設置し、産直市、資材センター、食品スーパーを運営。

取組内容

- 平成30年7月豪雨では、深刻な被害が発生。地域に寄り添った施設として、地域が魅力あるものとなるようサポートする「真の地域密着」を目指す。
- 被災地を含む女性・高齢者の買い物弱者に「出向く」体制を作る。
- 被災農業者だけでなく、小規模事業者の方々と共に復興することを目指す。

活動の効果

- 移動販売車業者と提携し、被災を受けた肱川流域の軒先まで生鮮品を届ける移動販売事業を2台開始。利用者から「便利で助かった。また使いたい。」などの評価を得ている。
- 復活したスーパーとテナントを利用した方々からは、「待ちに待った再開」「大洲が活気づく」など再開を待ち望んでいた声が聞かれた。

応募団体からのアピール・メッセージ

移動販売車は本年中にキャッシュカードを使ったキャッシュアウトサービスが可能となり、今後は買い物弱者の軒先で現金を渡すサービスを展開予定です。

せいよ
生活協同組合コープえひめ(西予支所)

～産消交流・農業体験で産地を元気に！～



鎌を使っでの稲刈り体験



お米づくりに活躍した合鴨とのふれあい

経緯

- 1974年7月12日に生活協同組合として発足(2004年10月1日 えひめ生活協同組合と生活協同組合アイコープが合併し、生活協同組合コープえひめ発足)。
- 1993年の冷夏の米不足をきっかけに「安心できる国産米を利用したい」との願いから、特別栽培米の生産が始まった。

取組内容

- 宇和合鴨農法研究会の皆さんとの交流を通じて、ごはん食や農業の大切さについて学習。
- 西予市宇和町の生産者の田んぼを借りて、毎年稲刈り体験会を実施。
- 鎌を使っでの稲刈り体験、生産者からお米の話、お米づくりに活躍した合鴨とのふれあい、お米クイズなど、食育の一環として生産者と交流。

活動の効果

- 農業体験等による生産者との交流活動を通じ、子どもたちは自然や農業に対する関心度が高まった。
- 農業体験を通じ、生産者と消費者がお互いに顔の見える関係が生産者の栽培意欲につながった。
- 消費者と生産者が体験会により顔の見える関係を構築していることから、安定的な取引が継続されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

稲作体験など「食」に関するイベントや、食の安全・食生活など食育に関する学習などを通じ、子どもたちに「食の大切さ」を伝えています。

おくませかわそうせいかいぎ

奥松瀬川創生会議

～みんなが活躍できる妖精の里～



ツリーハウス完成披露会



ピザ作り体験教室

経緯

- 平成21年、農機具の購入及び利用、水稻育苗を共同で行う集落営農組織「桜羅(おうら)楽農会」が設立。
- 「桜羅楽農会」メンバーが主体となって住民に呼びかけ、ワークショップの開催や情報冊子を作成。
- 平成28年7月、「奥松瀬川創生会議」が設立。

取組内容

- 地域の高齢者や女性だけでなく、障がいを持つ人たちも参画し事業を展開。
- 地域住民の声から、交流拠点施設「ほっこり奥松」でパン、ピザ、手芸、竹加工の教室を開催。口コミにより、地域外からの参加も増加。
- 耕作放棄地対策として始まった交流農園「ぽんぽこ農園」に、バーベキュー場やツリーハウスなどの付加施設を整備。

活動の効果

- 活動に子どもたちが参加することで、子育て世代の両親も活動に加わるようになり、多世代参加型の活動への一歩を踏み出した。
- 女性や高齢者、障がい者など立場を問わず、すべての人が交流を深めながら活躍。
- 障がい者が利用しやすい施設整備・優遇制度を進めていることもあり、障がい者施設や高齢者団体からの問い合わせや利用が増えてきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

自由な発想から生まれたイメージキャラクターが起点となり、子どもたちや大学生が参画・活躍できる「妖精の里づくり事業」が立ち上がったことで、地域創生事業の輪が広がっています。

東温市松瀬川1876番地 Tel:050-1239-1606

もりた まさし

森田 将史

～みんなが活躍できる妖精の里～



子どもが妖精を創作、学生が創作した妖精物語



ピザ作り体験教室

経緯

- 地域おこし協力隊として奥松瀬川地域に着任し、平成28年度から地域課題の解決や地域活性化を支援するため、地域運営組織を立ち上げ。

取組内容

- 耕作放棄地対策として始めた交流農園では、バーベキュー場やツリーハウスなどの付加施設を設置。
- 地域住民が気軽に集える場所になるよう、住民の声を元に教室を開催。
- イメージキャラクター「ほっこりちゃん」を活用した地域の子どもたちによる創作ワークショップや、パンフレットの作成。

活動の効果

- 着任当初、地域創生事業は白紙であったが、協力隊の活動として事業支援を行った結果、組織を立ち上げることができた。
- 事務局として地域コミュニティの再生や活性化事業を実現化していったことにより、地域住民から信頼を得ることができ、退任後も地域の集落支援員に任命され、新たな事業の推進人材として期待されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

妻にイラスト看板制作を依頼したことがきっかけとなり、奥松瀬川地域の地域創生事業の方向性は、誰もが活躍し気兼ねなく来訪できる地域づくりへと舵を切り活動しています。

東温市志津川155番地2 Tel:080-1437-9862

かわい
川井営農組合

～守りつなぎ楽しむ地域の自然・文化・農業～



川井れんげまつり



地域子ども会とのしめ飾り作りや餅つき

経緯

- 荒廃田の解消のため、平成25年に3人のグループで稲作の活動を始めた。
- 集落営農組織による稲作等の生産及び農作業の協業化が不可欠と考え、平成26年3月3日、伊予地区集落営農組織等連絡協議会の設立時に「川井地区の農業を考える会(仮称)」として加入。

取組内容

- 伊予地区集落営農組織等連絡協議会に加入し、講習会や先進地視察に積極的に参加。
- 水稻、玉葱、里芋、キウイ、柿など多角的に作物の栽培・収穫・販売を開始。
- コスモスやレンゲによる景観の保護、夏祭りには手作り燈明を県道沿いに点燈、子ども会と一緒に注連飾りづくりなど、地域に密着した活動を行っている。

活動の効果

- 水稻の売上高が804千円から1,195千円に増加(H26→H30)。
- 組合が機能して作付けを復活させた耕作放棄地は、地域景観の保全を果たしている。
- 存続の危機にあった夏祭りに燈明を導入したことで来客数が増加に転じ、年々盛大になっている。その他のイベントでも地域全体のけん引役として定着してきた。
- 定年退職者の賛同、加入などで毎年組合員数も増えて活発な活動ができている。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域景観の保全や維持継承をするとともに、小さな地域限定の集落営農組織だからこそできる細やかな活動を展開していきます。

伊予郡砥部町川井1368 Tel:080-6379-9477

いずみだに

泉谷地区棚田を守る会

～絶景の棚田を核とした地域活性化～



棚田オーナー



「自然浴ツアー」の豊年おどり

経緯

- 泉谷地区の棚田が、平成11年に全国棚田百選に選定された。
- これをきっかけに、地域で棚田の機能・景観が資源として認識され、環境整備や保全活動を始め、未来へ棚田を継承する活動がスタートした。

取組内容

- 年間10～15組の棚田オーナーを受入れ、交流、また、地元案内人と棚田めぐり、地元食材を楽しむツアーを開催。
- 学生が作業を手伝い、労働の対価として米を支給する「奨学米制度」に取り組む。
- 自治会でコミュニティカフェ、宿泊所を整備し、「泉谷の宿 花穂(かほ)」を平成29年7月にオープン。

活動の効果

- 地元イベントを開催することで、自治会を中心に棚田保全に関わる協力者が増加。
- 20年近く継続している交流事業の効果や、「美味しい棚田米」というツールにも恵まれたことにより事業運営は順調。また、「泉谷棚田」「御祓地域」の名前が大勢の人に認知されることにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

先代から受け継ぎ、守り続けてきた棚田は、地域のみならず内子町の宝となりました。様々な課題はあるものの、継続し発展させていく活動をしていこうと取り組んでいます。

17

うちこちょう
愛媛県内子町

雇用

6次産業化

のうどう くにひろ
納堂 邦弘

～「あるもの探し」から始める地域おこし～



出荷者と新たなオダメイド研究開発の状況



道の駅「小田の郷せせらぎ」での販売状況

経緯

- 平成26年10月、地域おこし協力隊として同地区に着任し山里ならではの農産物を使った新商品の開発などに取り組む。
- 平成29年9月に任期が切れた後も引き続き地域の課題を解決する各種取組を継続している。

取組内容

- 地元特産の人参芋やアピオスなど山里らしい素材での販売では商品価値が活かされていないことから、付加価値を付ける取り組みを始める。
- 地元農産物を使ったアイスクリームや焼き菓子、コンフィチュール等の商品開発。
- 地元小学3年生の総合学習の授業で、オダメイドの取り組みをテーマにし、通年交流。

活動の効果

- 地元酒造会社とコラボした純米吟醸アイスなど、次々と新商品を開発し、県内外で広く各種メディアで取り上げられ、道の駅への来場者や売り上げ増加に貢献。
- これまで普通の農産物と思って販売していた生産者の考え方にも変化が生まれ、栽培作物の多様化や付加価値を付ける重要性が浸透し、新商品開発につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域の人たちが、自分たちの地域の良さに気づき、ここにしかないという誇りを持つことが大切。私はそれを「よそもの目線」で伝え続けるだけです。

喜多郡内子町小田48番地 Tel:090-9546-3726